中華人民共和国
第五期全国人民代表大会
第一回会議文献

中華人民共和国
第五期全国人民代表大会
第一回会議文献

外文出版社
北京

中華人民共和国第五期全国
人民代表大会第一回会議文献

1978年　初版発行

出版者　外文出版社
（北京阜成門外百万莊）

発行者　中国国際書店
（北京 P.O.Box 399）

取扱店　東方書店(東京)　亜東書店(東京)
中国書店(福岡)　(株)内山書店(東京)
(株)満江紅(東京)　朋友書店(東京都)
(株)燎原書店(東京)　中華書店(東京)

編号：（日）3050—2808

3—J—1470
00140（精）
00115（平）

団結して、現代化した社会主義強国を建設するために奮闘しよう

（一九七八年二月二十六日、第五期全国人民代表大会第一回会議における政府活動報告）

華国鋒

目次

団結して、現代化した社会主義強国を建設するために奮闘しよう……華国鋒……1
（一九七八年二月二十六日、第五期全国人民代表大会第一回会議における政府活動報告）
中華人民共和国第五期全国人民代表大会
第一回会議の政府活動報告についての決議……119
（一九七八年三月五日採択）
中華人民共和国全国人民代表大会布告……123
中華人民共和国憲法……125
（一九七八年三月五日、中華人民共和国第五期全国人民代表大会第一回会議で採択）
憲法改正についての報告……葉剣英……167
（一九七八年三月一日、中華人民共和国第五期全国人民代表大会第一回会議における報告）
中華人民共和国全国人民代表大会の、第五期全国人民代表大会常務委員会委員長、副委員長、秘書長および委員の選出、国務院総理の任命、最高人民法院院長、最高人民検察院検察長の選出、国務院のその他の構成人員の決定、中国科学院院長、中国社会科学院院長の任命、中華人民共和国国歌の採択にかんする六つの布告……215

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

中華人民共和国第五期全国人民代表大会
第一回会議主席団および秘書長の名簿 …… 231

団結して、現代化した社会主義強国を建設するために奮闘しよう

（一九七八年二月二十六日、第五期全国人民代表大会第一回会議における政府活動報告）

華国鋒

代表のみなさん

ただいまから国務院を代表して、第五期全国人民代表大会にたいし、政府活動報告をおこないたいと思う。

報告は六つの部分からなる。一、三年らいの闘争と新たな時期における全般的任務。二、「四人組」摘発、批判の闘争をあくまですすめる。三、社会主義

の経済建設のテンポをはやめる。四、社会主義の科学・教育・文化事業を繁栄させる。五、権力機関の建設を強化し、各民族人民の大団結を強化する。六、国際情勢とわが国の対外政策。

団結して、現代化した社会主義強国を建設するために奮闘しよう――これが報告のテーマである。

三年らいの闘争と新たな時期における全般的任務

第四期全国人民代表大会いらい、わが国は先鋭かつ複雑な階級闘争と路線闘争をつうじて、きびしい試練に耐えぬいてきた。わが国人民は中国共産党の指導のもとに激しい闘争をくりかえし、ついに王洪文・張春橋・江青・姚文元「四人組」反党集団を粉砕した。この偉大な勝利は、わが国の第一次プロレタリア文化大革命が勝利のうちに幕をとじ、わが国の社会主義革命と社会主義建

設が新たな発展の時期にはいったことを示している。

昨年ひらかれた党の十一回大会は、わが党と「四人組」との闘争を全面的に総括した。この闘争はたしかに、プロレタリア階級とブルジョア階級との生死をかけた格闘であり、歴史的な大決戦であった。闘争の中心問題は、毛主席のプロレタリア革命路線を堅持するのか、それとも「四人組」の反革命修正主義路線を実行するのか、プロレタリア階級独裁を堅持するのか、それともブルジョア階級のファッショ独裁を実行するのか、わが国を富み栄えた、現代化した社会主義強国にきずきあげるのか、それともふたたび半植民地、半封建の国家に転落させるのか、ということであった。われわれと「四人組」とのあいだでは、こうした中心問題をめぐって、つぎからつぎへと人びとを震撼させた闘争がくりひろげられたのである。

第四期全国人民代表大会の準備と開催は、われわれと「四人組」との闘争における一大合戦であった。これよりさき、われわれは林彪反党集団を粉砕し

て、一九七三年八月、党の十回大会を開催し、全国の情勢にはすばらしいものがあった。当時、毛主席と党中央は、プロレタリア文化大革命の勝利の成果をうち固め発展させるため、第四期全国人民代表大会の開催を準備することを決定し、この会議で、わが国の指導部を選出、任命することにした。この大会はひじょうに重要なものであった。はやくから林彪反党集団と結託していた「四人組」は、このときとびだしてきて、いっそう気違いじみた攪乱と破壊をおこない、国家の最高権力をのっとろうとした。一九七四年、かれらは批林批孔の機に乗じて奇襲攻撃をかけ、党をのっとり権力を奪取するため、大いに反革命の世論をつくり、そのほこ先を毛主席をはじめとする党中央にむけ、周恩来総理と葉剣英副主席に狂気のように反対して、中央から地方にいたるおおぜいの指導幹部を打倒しようとした。「四人組」の妨害と破壊のため、多くのところでは、党、政府、軍隊の機関が正常な活動をやれなくなった。なかには、かれらの一味に指導権を奪われ、資本主義がはんらんし、社会主義経済が大きな損

害をこうむり、科学・教育・文化事業がひどく破壊されたところもあった。毛主席はかれらの破壊活動を批判し、「**プロレタリア文化大革命はもう八年になる。いまは安定をはかるほうがよい。全党、全軍は団結しなければならない**」と、はっきり指摘した。毛主席はまた、いくどとなく、「**国民経済を発展させよう**」と指示した。だが、「四人組」は毛主席の指示をあくまで受け入れないばかりか、やっきになって密謀、画策し、第四期全国人民代表大会の開催を機に、かれらの手で「組閣」しようとたくらんだ。毛主席はいちはやくかれらの陰謀を暴露し、江青には野心があると鋭く指摘して、彼女が出しゃばることも、文書に指示を書くことも、「組閣」することも許さなかった。毛主席は、われわれの敬愛する周総理をこのうえなく信頼し、「**総理はやはりわれわれの総理である**」と明確に指示し、周総理が第四期全国人民代表大会と国務院の人事をきめ、鄧小平同志が周総理に協力して政府活動報告を起草することを決定した。一九七五年一月、第四期全国人民代表大会が勝利のうちに開かれたこと

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

によって、「四人組」の組閣の陰謀は挫折した。これは、党をのっとり権力を奪取しようとするかれらの犯罪的な活動にとって大きな打撃であった。

第四期全国人民代表大会のあと、毛主席の一連の重要指示を実行するか、それともこれに反対するかの問題をめぐって、われわれと「四人組」とのあいだには、いっそう激烈な闘争が展開された。毛主席が第四期全国人民代表大会の直前におこなった指示の基本精神は、プロレタリア階級独裁をさらにうち固め、強化して、全国の安定と団結を促し、国民経済を発展させることであった。周総理は毛主席のこの指示にもとづいて、第四期全国人民代表大会第一回会議の席上、全国人民はさらに団結をつよめて、党の基本路線を堅持し、今世紀中にわが国を現代化した社会主義強国にきずきあげるため奮闘努力しようと呼びかけ、幾億もの人民の革命的意欲をこのうえなく奮い立たせた。こうした状況のもとで、「四人組」は、党をのっとり権力を奪取する反革命の目的をとげるため、プロレタリア階級独裁の理論を学習することについての毛主席の指示を

改ざんし、「経験主義こそ当面の主要な危険である」という反革命の謬論をしきりに宣伝し、またもや分裂活動に狂奔し、陰謀術策に血道をあげ、周総理と党、政府、軍隊の数多くの指導幹部にほこ先をむけた。毛主席はかれらの妨害と破壊にたいし、かれらは、「マルクス主義をやるのであって、修正主義をやってはならない、団結するのであって、分裂してはならない、公明正大であって、陰謀術策をめぐらしてはならない」という基本原則にそむいているとくりかえし批判し、「四人組をつくってはいけない」と何度も警告した。中央政治局は毛主席の指示にもとづいて、「四人組」をきびしく批判した。この間、党中央と国務院は、鉄道会議、冶金会議、国防工業会議、中央軍事委員会拡大会議、農業は大寨に学ぶ第一回全国会議などの重要な会議をあいついで招集し、各級指導グループの整頓に力を入れ、党の政策を実行に移し、ブルジョア階級の派閥性を批判し、大衆を動員して都市と農村の資本主義勢力に打撃をあたえ、工業、農業、財政・貿易・商業、科学、教育、軍隊など各分野の仕事の整

頓に着手し、「四人組」の妨害と破壊による悪影響の一掃につとめた。中央のとったこれら一連の措置は、全国人民の熱烈な支持と共感を得た。諸般の仕事はいちじるしい成果をあげ、国民経済は好転しはじめた。

一九七六年一月、敬愛する周総理が逝去された。この前後、「四人組」は、時機到来とばかりに、党、国家、軍隊の権力をそっくり自分たちの手中におさめようとして気違いじみた反撃にでてきた。そのため、またしてもきわめてはげしい闘争がくりひろげられた。かれらは、さまざまな陰謀をたくらんで、周総理に哀悼の意をあらわす広範な幹部と大衆を抑圧、迫害し、鄧小平同志に無実の罪をきせた。かれらは、われわれが一九七五年に各分野でおさめた成果を全面的に否定し、毛主席の一連の指示を実行することを「修正主義綱領」をおしすすめるものだと中傷し、各分野における整頓を「全面的復活」だと中傷し、四つの現代化を実現した社会主義強国を建設することを「資本主義化」だと中傷した。かれらはデマを流し、罪名をデッチあげ、国務院の主要な指導者

をあしざまに攻撃し、国務院と中央各部の活動をマヒさせようとした。かれらは「生産力理論」の棍棒を振りまわし、革命に力を入れて生産を促している広範な幹部と大衆をいたるところでたたき、国民経済全体をマヒ状態におとしいれようとした。かれらのこの犯罪的なねらいは、全国を混乱させ、それに乗じて権力を奪取することにあった。英明果断な毛主席は非常措置をとり、一九七六年一月末、みずから提案し、中央政治局の討議と承認を経て、国務院総理代行および中央の日常活動を主宰する人事を確定した。また、四月のはじめには、みずから提案し、中央政治局の討議と承認を経て、党中央第一副主席と国務院総理の人事を確定した。毛主席のこの重要な戦略的決定は、党をのっとり権力を奪取しようとする「四人組」の陰謀に痛烈な打撃をあたえ、その後、「四人組」の問題を解決するうえでの基礎をきずいた。だが、「四人組」はこの失敗にこりなかった。かれらは十倍もの狂暴さ、百倍もの憎しみをもって、あちこちで扇動をおこない、はては老幹部は「民主派」、「民主派」はすなわ

ち「走資派」であるという反革命的政治綱領まで公然とうち出し、上は中央から下は地方にいたるまで、各段階ごとに「走資派」をつまみ出すようあおりたて、毛主席の革命路線を堅持する党、政府、軍隊の各級指導幹部を一人のこらず打倒しようとした。党中央の圧倒的多数の同志は、一致団結して原則を堅持し、「四人組」と断固たたかった。文化大革命で鍛えられた広範な幹部と大衆、人民解放軍の指揮員と戦闘員は、きわめて高い路線の自覚をもって、時代に逆行する「四人組」にはげしい怒りを燃やし、さまざまな形でそれに抵抗、反対し、なにものをも恐れぬ革命精神でその圧力をはねのけた。

一九七六年九月、われわれの偉大な指導者であり、教師である毛主席が逝去された。全国の各民族人民は、かぎりない悲しみと深い憂いにとざされた。この非常のさい、「四人組」はわが党、わが国、わが国人民が大きな困難に直面したのにつけこみ、党と国家の最高権力を奪取する反革命の足取りをいっそうはやめた。かれらは、党中央と全国各地との連絡を断ち切ろうとくわだてる、

江青に「忠誠表明状」や「即位要望書」をおくることを画策する、装いをこらして権力の座につくためのいろいろな準備をいそぐ、ひそかに「反革命分子の鎮圧」と「人を殺すこと」を画策するなど、さまざまな行動にでた。とりわけ重大なのは、かれらが「既定の方針にしたがって事をはこぶように」という毛主席の「臨終のことば」なるものを捏造して、党中央は「毛主席の既定の方針を改ざんした」というデマを流して誹謗し、党中央をくつがえすことを公然とあおりたてたことである。かれらは反革命クーデターの行動に出ようとしたのである。この危急存亡の瀬戸ぎわに、党中央は毛主席の遺志を継ぎ、全国各民族人民の共通の願いと根本的利益を代表して、一九七六年十月六日、「四人組」を一挙に粉砕した。全国各地のすべての人びとは喜びに沸きたち、わが党が十一回目の重大な路線闘争で決定的な勝利をおさめたことに熱烈な歓呼をおくった。

この間の経過をふりかえってみると、われわれと「四人組」との闘争は、わ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com